

2011年3月期本決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2011年3月期の実績について】

Q：運用サービスで、新規顧客獲得による売上高への寄与はどの程度あったのか。

A：証券会社のある顧客で2011年3月期の第4四半期から新規の運用がスタートしたので、2011年3月期の第1四半期～第3四半期は前年同期比で増収寄与した。しかし、他の顧客のアウトソーシングやITコストの抑制などのマイナス要因があり、通期で見ても結果的に横ばいになった。

Q：コンサルティング事業が好調だった背景を具体的に教えてほしい。

A：国内はリーマンショック後、案件が減っていたが2011年3月期の下期あたりから引き合いが増えた。これは顧客が新しい事業展開をしようと考え始めたことが背景にある。このムードが壊れなければ今後とも伸びていくだろうと考えていたが、震災が起きて状況は不透明になった。一方、中国における業績向上の要因は現地社員を採用・育成し、現地企業・政府に対してアプローチしやすくなった点大きい。

Q：震災によって状況が不透明になったとのことだが、具体的にストップした案件などはあるのか。

A：一部、顧客によっては案件の先延ばしの話は出てきているが、具体的な影響はまだ出てはいない。

【2012年3月期の予想について】

Q：2012年3月期の予想は震災の影響を織り込んでいるのか。

A：震災の影響については現在想定できる範囲で織り込んだ。今後もう少し震災の影響が見えてくれば、場合によっては影響度合いの見直しはあるかもしれない。

Q：下期の予想が増収・減益になっている理由を教えてください。

A：前期（2011年3月期）の下期は外注費の効率化が上手くいったほか、プロジェクトマネジメントの改善が想定以上に上手くいき、利益水準がかなり高かった背景がある。

Q：コンサルティングが下期減収になる要因は？

A：前期（2011年3月期）の下期、中国でのコンサルティング案件などを中心に勢いがあつたが、その勢いが2012年3月期も続くかは不透明な状況とみている。

Q：運用サービスの予想が前年同期比で上期減収になっている一方、下期は上期より30億円の増収となる要因は？

A：証券業の主要顧客を含めて、顧客のITコスト抑制が厳しくなると想定している。下期についてはSTAR-IVの新規顧客の利用開始があり、それが寄与する効果もある。

Q：2012年3月期の収益モデルで、開発製品販売の伸びに比べて外注費の伸びが大きい要因は？

A：無形固定資産への投資が増え、その見合いとして外注費が増える分もある。

・本資料は、2011年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送を行わないようお願いいたします

Q：証券業の主要顧客向け STAR-IV 導入の案件が動き出す割には、証券業向けの売上高予想の伸びはかなり小さいという印象だが、状況について教えてほしい。

A：STAR-IV 導入プロジェクト以外の当該顧客向けにおける既存部分でのシステム開発投資の抑制、運用サービスでの減収も想定しているため、ネットでは増収規模が小さく見えている面もある。

Q：NRI の証券業向けのリソースは数百人規模で STAR-IV 導入の仕事に注がれると考えて良い？

A：その通り。証券系の社員の稼働率は高まることになる。

Q：不採算案件がなくなることによる利益の改善は金額ベースでどれくらいを見ているのか。

A：2011年3月期は上期に約30億円程度の不採算コストが発生したが、下期ではそれらの案件を含めて全般的にプロジェクトマネジメントの状況が改善した。従って、2012年3月期に向けて約30億円の全額が増益に寄与するわけではない。

Q：2011年3月期の下期は、利益率がとても高い案件があったということ？

A：2011年3月期は不採算案件を終息させることに注力し、新しい案件を手掛ける力がそがれた。結果的に、手堅い案件と不採算の終息に注力し良い営業利益率になった。

【その他】

Q：データセンターでは夏場に向けた節電対応でどれくらいのコストが見込まれるのか。

A：データセンターを自家発電に切り替えた場合、発電のための燃料などで追加のコストが必要になるかもしれない。しかし金額的には営業利益に大きな影響を与える程ではないと現時点では見ている。

Q：中長期の成長に向けて、定量的なイメージ感を教えてほしい。

A：中長期的に7%成長を目指していくことは従来から申し上げており、その目標は変えていない。2012年3月期はまだ不透明な事業環境が続き、低成長となる見通しだが、中長期的には引き続き7%成長を目指していく。

以上

・本資料は、2011年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします